

おうちの方へ 保健室からの…つ・ぶ・や・き

新年早々、大災害となった能登半島地震から2週間がたちました。

あの日、のんびりお正月番組を見ながらうとうとしかけていた私は、けたたましい音で緊急地震速報が流れたため、すっかり目が覚めました。ほどなくして、何とも言えない気持ちの悪い揺れが結構長く続いたように思います。(大津は震度3だったようです。)テレビはどの局も地震関連のニュースになり、これは本当に大変なことが起こったと理解しました。でも、正直なところ、自分とは離れたところで起こった出来事にしか思えません。2日程して、テレビに、避難所になっている学校の保健室がチラッと映し出された時、『もし子どもたちが学校にいる時にあの保健室にいたら、私はどう行動していただろう…』と、やっと少し自分のこととして考えることができました。自分なら、避難誘導はちゃんとできただろうか、手当が必要な人に何ができるだろう、まずは自分の身はどうやって守るのだろう…。その後もふと、自分なら…と考えてはみるものの結局、我が身に起こっても的確に動けるぞ!と自信を持って言えるほど、シュミレーションできずにいます。



東日本大震災の翌年、宮城県の高校に他県からボランティア派遣された先生の話聞く機会がありました。その中で最も印象的だったのが、「現地の先生方から『津波から身を守るためには、1秒でも早く、1cmでも遠く、1段でも高くへ逃げる。1秒、1cm、1段が生死を分けることもある。』と教わった。」と言うお話でした。1秒でも早く行動に移せたら、1cmでも遠くに手を伸ばせたら、1段でも高く階段を登っていたら、助かった命がたくさんあったのだと思います。災害現場での動きを具体的に考えてみるのができ、やはり現場の生の声を聞くって大事なのだと感じたことを思い出しました。

学校でも万が一に備えて、防災教育の一貫で避難訓練や下校訓練などをしていますが、見ているとまだまだやらされている感が強いように思います。私も含めて被災体験がないと自分は大丈夫だと思ってしまうがちです。でも、起こってからでは遅いのです。我が身に起こったら…と少しでも自分のこととして考えられるよう、指導の



工夫をしなければと思います。命の大切さを実感し、それを守るために臨機応変に判断・対応できる力を育てていきたいです。

この機会におうちでも防災について話題にしていただけると幸いです。

